

# 民主島根

2017年  
**6.11**  
第1289号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 改憲、森友・加計疑惑…安倍暴走に審判を 市田副委員長を迎えて大田、浜田で集い 大平衆議院議員、垣内比中、例国、むこせ島根2区らが決意表明

日本共産党県委員会と同西部地区委員会は3日、市田忠義副委員長・参院議員を迎えて大田市と浜田市で「日本共産党を語るつどい」を開きました。同日を初めて訪れた市田氏は、森友学園と加計学園をめぐる疑惑の解明に背を向け、三権分立を無視して憲法改悪に踏み出す安倍政権を「暴走政治に歯止めがなく、倫理やモラルも失っている」と指摘。国民の内心を取り締まる「共謀罪」法案を「思想・信条の自由を侵害し、モノ言えぬ監視社会をつくる文字通り現代版の治安維持法だ」と批判しました。

200人を前に訴える大平喜信衆議院議員（大田市あすてらすホール）



150人に入党を呼びかける市田忠義副委員長（浜田市いわみーる研修室）



権と暮らしよりも米国の利益を上に置く安倍政権に私たちの未来は託せない。「憲法改悪に突き進む自民、公明、維新を日本共産党の躍進で少数に追い込みましょう」と訴える手起こりしました。

むこせ慎一島根2区予定候補は「平和と暮らしを守る政治をめざし、全力で頑張ります」と決意表明。市田氏の「団結して励まし合いながら頑張れば、政治を変える大きな力になる」との訴えに、2人が入党を決意しました。



### 国保・介護、子育て支援の充実を むこせ島根2区予定候補が石橋邑南町長に要望

日本共産党の、むこせ慎一衆議院議員、むこせ慎一島根2区予定候補は5月31日、邑南町の石橋良治町長を訪ね、党が取り組んだ住民アンケートの意見などを踏まえた町政への要望書を提出しました。（写真）

保険税、介護保険料を払いきれない加入者の生活実態の把握▽生活実態を無視した保険税の徴収や差し押さえなどの制裁をしないこと▽何でも気軽に相談できる「子育て相談窓口」の設置などを求めました。

石橋町長は「子育て相談窓口」については高校生くらいまでを対象に4月から実施している」と答えました。

### 飯南町、美郷町議選 飯南現職伊藤氏、美郷新人中原氏

7月18日告示 23日投票  
飯南町議選（定数10）、美郷町議選（定数12）が7月18日告示・23日投票で行われます。

党では、住民アンケートに取り組みとともに、対話や宣伝活動を強めています。



美郷町議選予定候補 中原保彦氏（新）  
飯南町議選予定候補 伊藤好晴氏（現）



日本共産党県委員会では5日、松江市で「県政懇談会」を開き、民主団体、労組など6団体から21人が参加しました。（写真）

### 6月県議会 県政懇談会ひらく 岩田島根1区予定候補、尾村・大國県議ら

院島根1区予定候補があいさつしました。尾村利成県議が来年4月から実施される国保の都道府県化、島根原発1号機の廃止措置計画の現状や問題点などについて報告しました。

**鼓動**  
「現在、物議を醸している『共謀罪』法案は（小林）多喜二が特高警察に虐殺された時代を彷彿とさせる。母である私達は可愛い子ども達を二度と戦争に向かわせてはならない。監督としてではなく母親として反対です」。2月に小欄で紹介した映画「母」監督の山田火砂子氏は、声を震わせて語った▼国会は18日の会期末前に、「共謀罪」法案をめぐって、国民の思想・内心を処罰する「広い市民が弾圧対象になる」「テロ対策とも関係ない」という「共謀罪」の恐るべき本質が明らかになるにつれ、反対の世論も広がっている▼「共謀罪」の対象になるのは277種類の犯罪。労働組合の当たり前の活動も捜査当局の意図的な判断で「会社財産を危うくする行為」の準備行為とみなされかねない。金田勝年法相は、花見に双眼鏡と地図を持っていけば「犯罪現場の下見」で「準備行為」などと国会で答弁。こんな悪法は廃案にするしかない▼金田法相は、2日には多喜二を虐殺に「刑の執行は適法」と言い放ち、戦前の思想弾圧に反省皆無の姿勢を明らかにした。安倍政権のもとで、国民を弾圧し、侵略戦争に突き進んだ過ちが繰り返されようとしている▼しかし、安倍政権は、「森友」「加計」とあいつぐ疑惑で窮地においこまれている。都議選も控え、国会会期延長も簡単にはできないだろう。国民の怒り、たたかいが広がらば、19日午後6時から松江でもしまね絵がかりの集いが開かれる。「二度と戦争に向かわせてはならない」。今こそ、この声を大きく広げよう。（後）

# しまね労連 憲法を行政に生かして 「共謀罪」法案にノーを 自治体キャラバンで県へ要請



5月22日から全県自治体キャラバンを開始した、しまね労連の小坂芳子議長らが5月31日、県庁を訪れ、「憲法を行政にいかす」よう要請しました。(写真)

と②最低賃金を引き上げ、地域間格差を解消すること③公契約条例を制定することなどを求めました。県の担当者は「原子力規制委員会に厳格な審査を要請している」「企業の体質強化・収入アップで賃金上昇につなげていきたい」「公契約条例を制定した自治体について、引き続き調査・研究していきたい」と答えました。

## 地域の話題 アツク アツク

### 消費増税中止を 各界連が宣伝署名

消費増税中止を各界連は5月24日、松江市で宣伝し、「共謀罪」反対と消費増税中止の署名を呼びかけました。島商連の大家英司事務局長は「『共謀罪』法案は国民の内心を処罰するもの。参議院で必ず廃案に」と訴えました。

### 国保の都道府県化 井原議員が追及

井原議員「国保は2018年4月、財政運営の主体が市町村から都道府県に移行し、広域化が進められる。都道府県化で保険料引き上げが懸念されるがどうか。」

### 部長「保険料の大幅 引き上げが予想される

日本共産党の後藤勝彦県委員長は「消費増税10%への増税に反対します。大資産家や大企業が相応の負担をするよう税金の集め方を変えていきます」と表明すると、手を振って声援を送る人も見られました。東京から観光で来た女性(60)は「戦前の

減少や医療給付費の増加により保険料を引き下げた状況にはない。(井原ゆうの議会報告)より)

### 生活交通具体化を 多田議員が要求

多田議員「生活交通における市民からのニーズは、乗合タクシーが最適だ。低料金で利便性を確保し、運行委託料でタクシー事業者の経営を安定させれば、市民の外出も容易となり、経済活性化や賑わいにつながると考える。具体化を求めると、どうか。」

### 答弁「地域コミュニテ ィーとタクシー事業者に

よる生活交通の検討を促している。地域コミュニティーから相談があれば、市としても一緒に検討していきたいと考えている。(多田伸治の議会報告)より)

## 島根原発1号機廃止措置

島根県総務委員会

### 大國・尾村県議が質疑

県議会は5月25日、島根原発1号機廃止措置について中国電力と原子力規制庁から説明を受けました。質疑応答で日本共産党の尾村利成県議は、来年度から稼働予定の再処理工場(青森県六ヶ所村)に使用済み核燃料を運搬するとし

し、国にしっかりと意思表明すべきだと求めました。日本共産党の岩田たけ

し衆院島根1区予定候補、尾村利成、大國陽介の両県議が同席しました。

## ローカル線の切り捨てやめよ

### JR三江線廃止問題で大臣を追及

先日、国土交通委員会では、昨年も取り上げたJR三江線をはじめローカル線の廃止問題を質問しました。JR西日本の社長は「大

量輸送という鉄道の特性が発揮できていない路線では、あるべき交通体系を議論する必要があります。三江線のように廃止してバス転換するのも選択肢の一つ」と露骨に語っていました。

## 大平よしのぶ

衆議院議員



アツク  
アツク  
やさしく

私は「芸備線や福塩線、木次線など該当する路線が廃止されれば、中国地方の中山間地域を走る鉄道はなくなってしまうのではないかと、国交省は黙って認めるのか」と大臣を追及。大臣は「事業者は丁寧な協議を」と繰り返しました。結局、現在の鉄道事業法の下では路線の廃止は事業者の届け出制となっており、国や自治体、住民には何の権限もないというところから最大の問題があります。

大國陽介県議は「点検漏れや報告書の偽造など不正、不祥事が相次いでいる。中電に廃炉という大仕事は任せられない」と批判したのに対し、古林本部長は「信頼を取り戻せるよう全社をあげて再発防止に取り組み」と述べました。他の県議からは「再処理などは政府の判断。計画通りにならないと政府に言ったら、約束が違おうと政府に言ってもらわなければならぬ」と、中電に指摘する意見もありました。



いまなお国民の巨額の負担に支えられ、「年間1000億円の利益を上げるJR西日本に決して好き放題にやらせてはならない、鉄道事業法の見直しを」と正面から求めた際には、他党からも拍手がありました。

## 第55回島根県母親大会

6月25日(日) 9:30~15:30

大田市立大田小学校

講演「いのちをみつめて おしばいとおはなし」

講師 有馬理恵さん(俳優)

一人芝居を交えたお話を聞いてみませんか。

主催：県母親大会実行委員会地元(大田)実行委員会

質問準備の過程で、谷川俊太郎さんがはじめて新幹線に乗った時につくったと言われる「急ぐ」という詩を目にしました。「こんなに急いでいいのだろうか 田植えをする人々の上を 時速二百キロで通りすぎ 私には彼らの手が見えない 心を思いやる暇がない この速度は早すぎて間が抜けている 苦しみも怒りも不公平も絶望も：しかもなお間にあわない急いでも急いでも間にあわない」。心から共感。「成長」や「効率」をどこまでも追求する財界と一体となった自民党政治に「中国地方から『田植えをする人々』の手を見、声を聞け」と警鐘を鳴らし続けたいとあらためて決意しました。(写真：倉林明子参院議員を迎えた岡山での演説会 5月20日)